

地域が主体となった空き地の活用・管理に関する調査事業 (八千代市 緑が丘西自治会)

- 地域住民のニーズを踏まえて、気軽に集うことができるおしゃれな交流拠点を整備
- 子どものリースづくりや英会話サークル等、地域住民の自主的な活動の場としても活用される等、地域の新たな交流拠点運営の実現可能性を実証

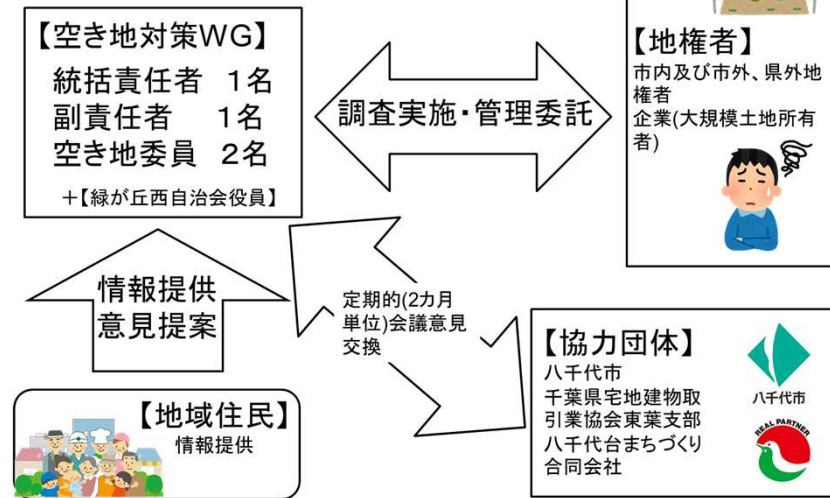
背景・課題

調査対象地域では、宅地が整備されないまま空き地が管理不全になっているケースが見られる一方で、地域の集いの場となるような機能が求められていた。

調査目的

住民の地域交流を目的とした、空き地を活用した拠点設置(ドーム型テント)による実証実験を通して、今後の拠点整備のあり方を検討する材料とする。

事業内容・スキーム



モデル調査の成果

ウッドデッキの広場を整備し、その上にドーム型テントを設置して、地域の交流拠点として運用した結果、利用した住民の反応は好評であった。

地域のハロウィンイベント時にお披露目して周知を図った結果、気軽に立ち寄れる場として利用されるとともに、子どものリースづくりや英会話サークル等、地域住民の主体的な活動の場としても利用された。

期間限定の取組ではあるが、比較的低予算で地域の賑わいの場を創出できた。



① 空き地調査情報整備

・昨年に引き続き、空き地の管理状況を把握した

② 空き地の管理委託事業

・昨年に引き続き、空き地所有者からの依頼に応じた草刈り等の事業を実施した

③ 空き地の利活用

・初の試みとして、地域住民の交流を目的とした拠点(ウッドデッキの上にドーム型テントを設置)を整備し運用した